

# 評価の考え方(案)

今般の評価依頼に対して、ハザードを特定し、  
現在までに得られた科学的知見について整理する

## 評価のポイント

### 評価の前提

BSEの現状(発生状況等)、日本におけるリスク管理措置の実施・順守状況等の確認

### ハザードの特定

#### ○定型BSE

・飼料規制等のBSE対策が継続されている中では、今後日本において発生する可能性はほとんどない。

#### ○非定型BSE

・H-BSEについては、これまで得られた実験動物への感染実験の結果から、人への感染の可能性は確認できない。  
・L-BSEについては、これまで得られた実験動物への感染実験の結果から、人への感染の可能性(人獣共通感染症の可能性)が否定できない。  
・これまでの審議における異常プリオンたん白質(PrP<sup>Sc</sup>)の蓄積分布に関する知見を考慮すると、今般の見直し範囲のうち、回腸遠位部及び扁桃へのPrP<sup>Sc</sup>の蓄積の可能性は低い。一方、背根神経節(DRG)にはPrP<sup>Sc</sup>蓄積が認められる。

**L-BSE由来の脊柱の背根神経節(DRG)に蓄積するPrP<sup>Sc</sup>を  
ハザードとして特定**

### ハザードの特性評価

特定されたハザードに関連して、現時点における、以下の科学的知見を整理

#### ○非定型BSE

・非定型BSEの発生状況  
・実験動物による伝達実験について 等

#### ○非定型BSEと人への感染リスク

・人獣共通感染症の可能性  
・種間バリア  
・疫学情報(人のプリオン病と非定型BSEの関連) 等

#### ○脊柱(背根神経節:DRG)

・DRGの感染価(定型、非定型)について  
・国際機関(WOAH)、諸外国における脊柱の取扱いについて 等

#### ○用量反応(Dose-Response)

・プリオン病における人での用量反応(Dose-Response)に係る知見 等

### ばく露評価

・脊柱がどのように利用された上で食用に供されるか  
・どれくらいの脊柱がフードチェーンに供給されるか  
等の利用可能なデータを確認した上で、日本におけるDRGのばく露量について検討

上記を踏まえ、総合的なリスクの判定を行う